

生命あふれる豊かな森を次世代へ

# くまもり森と人

2023.冬  
vol.2  
Total 115

特集 東北 人身事故多発でクマ捕殺が暴走  
捕殺で、人身事故は無くならない  
みちのく風力発電白紙撤回に  
くまもりカフェを全国で開催

対立を超えて共存の道を



日本にも本当に自然を守ることができる大きな自然保護団体を作ろう！

日本には真に自然や野生動物を守ることができる法律がありません。  
法律をつくるためには、たくさんの会員に支援された大きな自然保護団体が重要です。  
ぜひ、会員の輪を広げていくことにご協力ください。

## 入会案内

※2024年1月より以下の会員種分類に変更いたします

入会手続き・ご寄付・年会費の納入が、  
郵便局・銀行に行かなくてもお手軽にできます。

クレジットカードでのご寄付・年会費の納入がウェブサイト  
からできます。ぜひご利用ください。

### ■使用可能カード



郵便局・銀行口座から  
の振込み・自動引  
落としも、今までど  
おりご利用いただけ  
ます。

●会費用QRコード ●寄付用QRコード

### ■会費・寄付のお振込先

- ①郵便振替  
口座名/熊森基金 00970-8-137360  
他金融機関からは 099店 普通0137360
- ②銀行振込  
三井住友銀行 西宮支店 普通8558663  
口座名/一般財団法人 日本熊森協会

## 個人会員

※ご入会の次年度からは、毎年1月に  
年会費の納入をお願いいたします。

|       |   |
|-------|---|
| ①応援会員 | 年会費 1千円以上6千円未満<br>年2回会報 年1回事業報告書 送付         |
| ②正会員  | 年会費 6千円以上10万円未満<br>年2回会報 年1回事業報告書 送付        |
| ③特別会員 | 年会費10万円以上<br>特別会員特典あり。<br>年2回会報 年1回事業報告書 送付 |
| ④家族会員 | 会員①～③の同居家族(会費不要)                            |

## 法人会員

※詳細は事務局までお問い合わせください。

- ①企業会員(年会費一口6万円)
- ②団体会員(年会費一口3万円)

### 【編集後記】

室谷：今年は、森林を破壊する再エネ事業（風力発電やメガソーラー）の裁判に代理人弁護士として関りました。熊森活動と違ってこちらはメディアに大きく注目され、乱開発の酷さを世に広く伝えることができました。

高野：自分の事情でハードなスケジュールになってしまう会報づくり、制作中はゆっくり文章の内容までチェックできませんでしたが、本当にクマのことで話題が尽きない一年でした。この状況は来年もまた続くのだろうか…。

川崎：子どもたちへの環境教育、兵庫での草刈り、各地でのクマカフェ、署名、動物版画などなど、ひとつひとつは小さいけれど、積み重なると少しずつずつではあるけれど確実に動いている。自然をわたしたちのコモンに！

米田：クマ捕殺強化の流れを止めるため国会へ行きました。票に直接繋がらないのに「クマの棲む森を次世代へ」という熊森に耳を傾けてくださる心ある国会議員もいました。それぞれの地域で選挙区の国会議員に訴えましょう！

脇井：熊森祭の日本奥山学会。その名をより知ってもらおうと、今季は学会で三重県青山高原風力発電見学会や神戸紅葉狩りハイキングを開催。1月には学会員茶話会を企画中。学術的側面から奥山保全を支える輪を広げたいです。

吉井：東北はまだ豊かな自然もたくさん残っていて羨ましいと思っていましたが、そんな東北で今年、前代未聞の多くのクマたちが食べ物を探して人里に出ては大量捕殺。どれほど異常なことが山で起きたのかと思います。

工藤：2023年は前半に再エネの大会、加美町の町長選挙。後半はクマ対策に環境教育と目まぐるしいなか、コロナと扁桃腺炎に罹患しました。これから活動はより大きく展開します。先を見据えて年末は体を労ろうと思います。

編集長 室谷 悠子(会長)  
 校正 川崎 浩(前東京都支部長)  
 デザイン 高野 哲史(神奈川支部長)  
 本部スタッフ 米田 真理子  
 脇井 真理子  
 吉井 陽子  
 工藤 真那

第27回 くまもり全国大会 開催  
 ぜひ今からご予約ください。  
 2024年4月21日(日) 13時~16時 於:兵庫県尼崎市 ホテルヴィスキオ  
 お申込み:0798-22-4190 contact@kumamori.org



実践自然保護団体

にほんくまもりきょうかい  
一般財団法人 日本熊森協会

〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町1-4 電話 0798-22-4190 FAX 0798-22-4196  
受付時間:10時~18時(日・水・祝日は休み)



【表紙写真】  
人身事故が一件も起きなかった秋田県美郷町にて  
現地に入った熊森本部、主原顧問、地元の方々

# 禁止



|              |                            |    |
|--------------|----------------------------|----|
| 巻頭言          | 会長 室谷悠子                    | 2  |
| 特集           | 東北 人身事故多発でクマ捕殺が暴走          | 4  |
|              | 捕殺で、人身事故は無くならない            | 9  |
| 報告           | 第2回 全国再エネ問題連絡会 全国大会        | 10 |
|              | みちのく風力発電白紙撤回に              | 12 |
| 会員紹介         | 動物版画家 赤祖父ユリさん              | 13 |
| 地域だより        | 新支部長あいさつ 北海道・新潟・広島・山口      | 14 |
|              | くまもりカフェを各地で開催              | 16 |
| 顧問連載         | 顧問 赤松 正雄                   | 17 |
| 環境教育         | 子どもたちに、自然や生き物との共存の大切さを伝えたい | 18 |
|              | 中学生に水源の森の大切さを語る            | 19 |
| 保護くま         | くまと過ごす日々                   | 20 |
| 読者欄・書籍紹介     |                            | 22 |
| 企業会員・団体会員・顧問 |                            | 23 |
| 入会のご案内・編集後記  |                            | 24 |



## 困難を抱える地域にこそ、 寄り添って協力を

会長 室谷悠子

対立を超えて、共存の道を

ロシアとウクライナの戦争が泥沼化するなかで、パレスチナとイスラエルが戦闘状態に入りました。戦乱でいつも犠牲になる子どもなど弱い立場のものたちのために、一刻も早い終戦を祈るばかりです。

日本では今年、東北を中心に山の実りが極端に悪く、秋に多数のクマが山から出てきて人身事故が多発。クマの凶暴性や事故の恐怖を煽る報道が連日流れる中、人身被害が多かった秋田県などでは大量捕殺に歯止めがかからなくなり、さらなる捕殺強化の動きも出ています。

社会は、「人か」「クマか」という対立構造に陥っています。しかし、そこからはよい解決策は出てきません。クマをはじめとする生きものたちが長い年月をかけてつくりあげてきた水源の森により、私たちは生かされています。人も守りながら共存の道を歩むことでしか、持続可能な未来は開けません。

熊森は、人身事故や農作物被害を減らしながら、クマや生きものたちと棲み分けの取り組みを続けてきました。クマ被害に困る地域を応援することも、全国に支部があり会員がいる自然保護団体だからこそできます。

奥山の再エネ開発問題を契機に、熊森の支部が誕生し、地域のみなさんと反対運動を進めてきたのも東北です。150基の風力発電計画が進む宮城県加美町では、今年8月6日、風力発電に反対する町長が誕生し、今後は町として風力発電を進めないことを宣言しました。青森県では、10月10日に最大150基の風車建設が予定されていた八甲田山の計画が白紙撤回されました。地域と力を合わせて取り組んだことが形になることを、私たちは経験してきました。

環境破壊の犠牲者であるクマたちを思うと胸が痛みます。対立を激化させるのではなく、地域の方々と手を取り解決をめざすことに、2024年も全力を注ぎたいです。

厳しい状況ですが、会員をはじめとする多くのみなさまが、熊森を支え、ともに歩んでくださることに、いつも心から感謝しております。

どうぞ良いお年をお迎えください。



熊森の活動はボランティアのみなさんなくしてはできません。緊急の呼びかけにも快く手をあげてくださる方々があり、兵庫県豊岡市から依頼された3ヵ月間にわたるクマ被害防除対策をやり遂げることができました。

無断転載禁止



# 観測史上最も暑かった今夏の異常気温で東北の山大凶作か 東北 人身事故多発でクマ捕殺が暴走

秋田県 人身事故過去最多 70 件 クマ捕殺暴走 2138 頭 (2023 年 11 月 23 日現在)

## クマ保全



東北の山は今秋大飢饉

東北森林管理局は今春、管内東北5県の国有林のブナが花をつけておらず「大凶作」と発表。クマの出没に警戒するよう呼びかけていました。ブナは豊凶の差が激しく、大凶作はよくあることです。しかし、近年は地球温暖化の影響で東北のミスナラも所によっては総枯れとのこと。コナラも暑すぎて夏に実らぬまま大量に生理落下したのか、実が付いていない所が多いということでした。

東北のドングリはこの3種類だけです。冬ごもり前の食い込みのために大量のドングリを食べなければならぬクマにとって致命的な事態です。

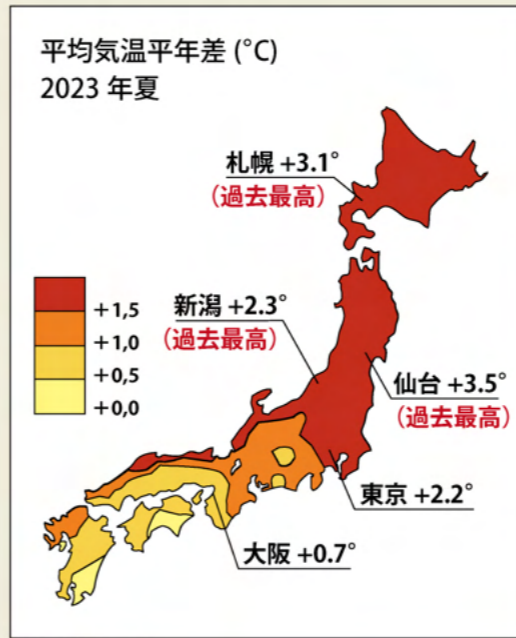
### クマが増加したのではない

昨年、ブナの実りが良かったため(並作)、メスグマがたくさん子を産んでクマが増え過ぎ、大凶作の今年、食糧難となり大量に山から出てきたという説が何度も報道されてきました。しかし、ブナ豊作の翌年、大凶作になったことは過去に何回もありました

案の定、秋になるにつれて東北地方では、ありえない数のクマが餌を求めて里どころか時には市街地にまで出て来るようになりました。これに伴い人身事故が急増。9月末時点で、すでに秋田県28件、岩手県27件(死亡1名)にのぼっていました。

「熊森は現場で草刈りやもぎなどを少ない費用で実施し、野生動物を殺すことなく人身事故や農作物被害を防ぐ活動を、年間100日以上展開している。秋田県は、そのノウハウを知り、使うべきではないのか?」それだけを言っただけに、

「こんなことを言っても、もうあの母子グマは帰って来ない」一人になると失望感と無力感で、涙が止まりません。後日、町担当者から、実はくまくま園への保護要請はなかった。申し訳なかったとの謝罪電話がありました。



気象庁 HP より



秋田県の人工林分布 (オレンジ色部分) 秋田県の人工林率は 48%



放置人工林の中にはクマのエサとなるものはない

活動によって大きく破壊されています。戦後に造られ放置された人工林内部が荒廃し、道路、ダム、施設などの奥山開発による自然破壊、近年の地球温暖化による昆虫の激減などです。

### 小屋に逃げ込んだ母子グマを救いたい

―新潟県支部長が現場急行―

10月4日早朝、秋田県美郷町で、餌を探しに山から出て来て朝帰りが遅れたとみられる母グマと2頭の子グマが、人間に目撃されて近くの作業場に逃げ込みました(マスコミは、居座っている、立てこもっていると報道)。母子グマは駆け付けた猟師や、行政担当者、警察官ら数十人に取り囲まれて逃げるに逃げられず、膠着状態となっていたもようです。その日の夕方のテレビニュースで大きく取り上げられ、全国的に注目的となっていました。夜になったため、決着は翌朝に持ち込まれたというものでした。

放獣例がいくつかある岩手県と違って、秋田県は眞に掛ったクマをすべて殺処分します。この母子グマは人身事故を起こしたわけでもないのに、何とか山に返してやれないか。秋田で殺さないクマ対応ケ―

スを一例でも作りたいたいと熊森本部は思いましたが、どんなに急いでも朝までに現地に駆けつけられません。そんなとき、クマ生息地に住む新潟県佐藤正陽支部長から、「新潟からなら間に合う、現場に駆け付けろ」と連絡が入りました。クマ狩猟やクマ飼育の経験もある山形県の佐藤八重治さんも一緒に行ってくださるようになりました。本部では室谷会長らが、現場の状況把握や関係者への連絡、クマを一旦保護するとなつた場合の檻の運搬などの段取りをどんどん進めていきました。本部クマ担当の水見職員は佐藤支部長と連絡を取り合うために徹夜体制に入りました。

### 無念 救えなかった命

佐藤支部長が夜通し車を飛ばして現地に着いたのは午前5時。数人の警察官がいただけです。母グマと2頭の子グマは別々の箱篋に捕獲されていました。

やってきた美郷町担当者やさっそく交渉開始。秋田県会議員も駆けつけてくれました。山に帰りそびれてしまっただけの母子グマなので、命だけは助けてやってほしい。佐藤支部長は、必死でした。

### 無力感で涙が止まらなかった

新潟県佐藤支部長の報告

町の担当者は、県とも検討するので待機していただくかと返答されました。クマたちの入った2つの箱篋はトラックの荷台に積まれました。待っている間、トラックの荷台から、母を呼ぶ子グマの悲痛な叫び声が何度も周囲に響き渡り、佐藤支部長はとてもし辛かったです。そのうち、トラックは山に移動しました。熊森本部も県庁秘書課に電話し、秋田のためにもなるのでクマ救命例を1例でも作ってほしいと佐竹敬久知事に伝えてくれるようお願いしましたが、母子とも殺処分されていました。



現地では、猟友会や警察、行政関係者、マスコミが大勢つめかけていた

現場に駆け付けた私は、町担当者に「放獣作業は全て熊森がさせてもらう。最悪の場合、この親子グマを引き取る」と申し入れました。担当者は、北秋田のくまくま園に保護の要請をすると言われ、私はその言葉を信じて役場で待ちました。時々、進捗状況を問い合わせましたが、その度に、もう少し待ってくださいと言われずと待っていました。正午ごろ、担当者から3頭と

も駆除したと説明を受けました。渡された1枚の紙には、「秋田県は放獣の経験が無い。今回、県の方針に従った」と書かれていました。決めるのは県でも、猟友会でもなく、町だと言っていたのに...。くまくま園には断られたとのことでした。

被害対策を取らない限り、駆除しても新たなクマがまた出没するだけなのは、過去のデータからも明らかです。毎年無用の殺生を続けることで、多額の町予算も失われていきます。

「熊森は現場で草刈りやもぎなどを少ない費用で実施し、野生動物を殺すことなく人身事故や農作物被害を防ぐ活動を、年間100日以上展開している。秋田県は、そのノウハウを知り、使うべきではないのか?」それだけを言っただけに、

特集

特集

# 禁止転載 新聞





秋田のみなさんと懇談する室谷会長（写真中央）  
来年は人身事故にあわれた方やクマ被害を受けた方を見舞って繋がっていききたい

秋田県にはまだ熊森の支部がありません。会員も少なく、大量出沒と大量捕殺が進む中で、熊森本部は現状把握もできず、大変苦しい思いをしていました。

しかし、地元の方が本部にメールを入れて下さったことから、熊森本部は11月20日から3日間、森林生態学者の主要顧問にもご同行をいただいて、森山名誉会長、職員の吉井で秋田を訪れることができました。

母子グマが捕殺された美郷町では、山裾のクマの木に8月末〜9月にクマが木に登ってクマを食べた痕跡であるクマ糞が延々とできていました。

クマは豊凶があまりないので今年も良く実っていたようです。このクマの実を食べることができたクマは、冬ごもりに入れるかもしれないと一縷の希望がわいてきました。地元の皆さんのご尽力で、尾

頭です。全国のツキノワグマの捕殺数は10月末の暫定値で5572頭ですから、いかに秋田で、クマの捕殺が暴走していたかがよくわかります。

**クマと共に暮らしてきた秋田県から、共存の声をあげていこう!!**

**熊森本部が秋田を訪問**

根まで登り山を視察、夜は地元の皆さんとの語らいと、3日間びっしりつまった大変有意義な秋田訪問となりました。

全国を飛び回っている室谷会長も、12月3日に秋田県美郷町入り。雪景色の中、親子グマが逃げ込んでいた小屋を見て、母子グマがここに来た理由やクマの移動経路を推察、山裾から山を視察し、地元の皆さんと語り合いました。

**秋田にも秋田のクマ対応に疑問を持っている人たちがいた!!**

「子どもの頃、猟師である父と犬を連れて山を走り回っていたが、今年クマが町まで出てきてこんなに大量に殺されていることに衝撃を受けた」と涙を浮かべて語る方、捕殺以外にこんな時の対応方法はないのか話を聞きに来た方、秋田の森林荒廃は深刻でこんなに荒れた山を放置していたらクマも出て来ざるを得ないという方、いろいろな方がおられました。マスコミ報道では、秋田では、皆がクマ捕殺を進めてほしいと願っているように見えていましたが、来てみると何人も住民が胸を痛めておられました。

クマはどのような動物なのか、どうして人身事故が起

るのか、事故に合わないようになり、また、クマが集落に入ってきたりするようにするにはどうすればいいのかを室谷会長が伝えると、皆さん、真剣にメモを取られていました。

美郷町に住む84歳の長老が、地元の湧き水が昔の1割に減っていると言われたそうです。一見豊かに見える秋田の森も深刻な荒廃が進んでいることに危機感をもちました。クマとも共存できるように何かしたいという声が、参加者から次々と出てきました。

**クマ被害に困っている地域を自然保護団体が応援しよう**  
**人身事故を減らし、クマと共存してこそ豊かな社会**

知事はクマが出てこないように、来年、カキやクマの木を全部伐ってしまうように指示されているそうですが、腹を空かせたクマはもつと下まで出てくるだけです。反対に、クマ止め林として、カキやクマなどエサになるものをたくさん植えたほうが出沒を止めることができるのです。温暖化対策に、暑さに強いドングリを植えることも検討すべきでしょう。人間は奥山から一歩下がり、餌のある森を再生すべきです。国にクマを指定管理鳥獣に指定してもらい、

より一層クマ捕殺を求める動きがありますが、むしろ人身事故や被害を防ぐための予算を請求すべきです。

今年山から出てきたクマの多くは、子連れの母グマや若いクマでした。力の弱い者が困窮に陥るというのは、戦争や飢饉などで、人間社会でも起きることです。

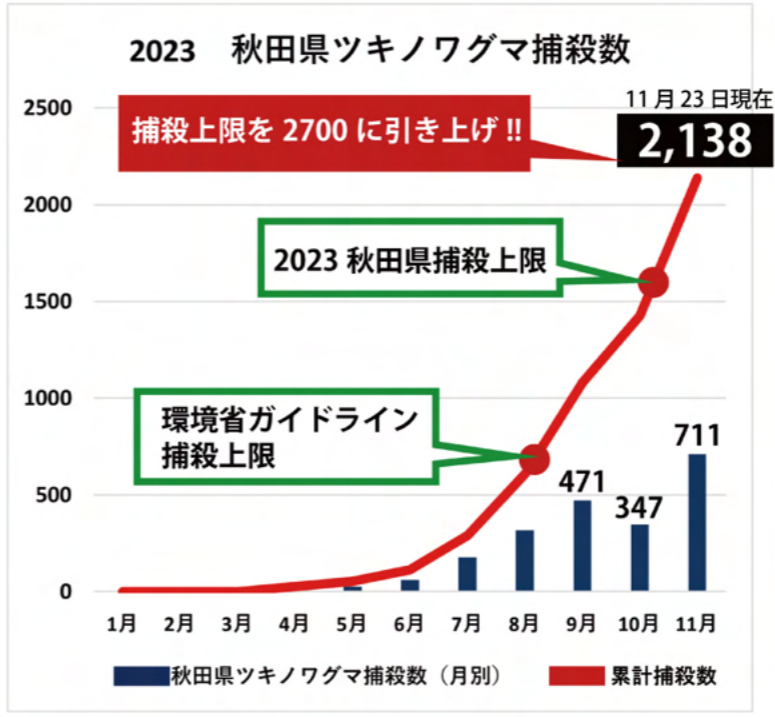
凶悪犯罪を起こした人たちの生い立ちを研究している社会病理学者の阿部憲仁氏は、「凶悪犯罪が起こる背景には、本来、自然や様々な生きものともつながって助け合ってきた人間の本質を否定している社会がある」と仰っています。そして、野生動物や自然に「共感」が持てない社会は、「凶悪化」するとの警鐘も鳴らしておられます。

クマの農作物被害や人身事故被害に困る方々と同様に、クマたちもまた困っており、生存の危機に瀕しています。生きものに冷たい社会は、人も生きづらい社会です。相手の立場にも配慮して、優しい解決をめざす社会が持続可能な社会であり、次の世代に遺すべき社会です。

自然保護団体である熊森をもっと大きくして、クマ被害に悩む地域をもっと支援していけるようにしたいです。



ANN ニュースより 美郷町の箱罠に入った親子グマ



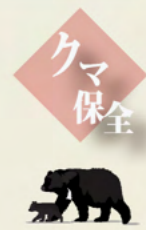
秋田県ツキノワグマ捕殺数の推移と累計 熊森協作成



クマの木に残るクマ糞 (11月21日)



秋田の山並み 奥山のブナ・ミズナラはすでに落葉しており手前のコナラ・クマは黄葉中だった (11月21日)



推定生息数の48%を駆除捕殺が止まらない

今年クマによる人身事故が続出して、秋田では人間社会がパニック状態となっていたように感じました。連日のマスコミ報道はクマに対する恐怖をことさらに煽るものばかりで、争いを避けるクマの賢さ、我慢強さ、母グマの子に対する深い愛情など、本来のクマのすばらしさを伝える報道は皆無でした。

秋田県では、知事がクマ駆除徹底を表明したこともあって、はちみつ入りの鉄格子罠

が各地に大量にかけられ、山から出てきたクマがどんどん罠に入り捕殺数がうなぎ上りになりました。秋田のマガギが「奥山には、クマは全くいない、順番に罠にかかるクマを待っている状態だ」と話しているのを聞いた人もいます。

環境省のガイドラインではクマの絶滅を防ぐための捕殺上限は生息推定数の12%までとなっており、人との軋轢の高い地域でも最大15%までとされています。秋田県のクマ推定生息数は

4400頭(2020年発表)ですから、捕殺上限は660頭でなければなりません。しかし、秋田県は、今年、捕殺上限を生息数の36.6%としており、1500頭まで捕殺できるようにしていました。

10月末には捕殺数は1427頭と上限枠近くまで達していましたが、11月1日から上限を100頭にして狩猟も開始。知事は、山の中でクマを見つけたらすぐに撃つことを徹底せよと指示し、猟師に対する支援と

して、クマ1頭につき7000円の慰労金を出すことを発表しました。

しかし、すぐに狩猟数が100頭を超えてしまい、秋田県はいったん狩猟自粛を発表したものの、猟師から抗議されたとして11月23日には上限を200頭に引き上げて狩猟を再開しました。同時に、今年の捕殺上限を生息推定数の61%の2700頭に引き上げました。

秋田県のクマ捕殺数は、11月23日現在で、生息推定数の48%にあたる2138



草刈りをして、潜み場を無くすことにより、事故の原因となる至近距離の接触を防ぐことができる。

クマ保全

人身事故ゼロ 地域行政や住民の方と協力し、クマ被害対策を実施



2015年7月、兵庫県豊岡市で、人里にクマが出てきて捕獲罠を設置しているというニュースが流れました。当時、1年目の新入職員だった私は、捕獲を阻止すべく市役所に行き、「このクマを捕殺しないで！」と担当者に抗議しました。しかし、担当者に「今回は人身事故を防ぐために捕獲するしかないんです。そこまで言うならクマが来ないようなどのような手段をとりますか？具体的に示してほしい」と言われ、何も言い返せませんでした。クマはその1月半後に捕獲・殺処分されました。

熊森本部 水見竜哉

豊岡市からの協力要請

2020年秋、豊岡市の鳥獣被害担当職員から数年ぶりに電話がありました。この数年、各所から熊森協会が現場でクマの被害対策に力を入れている、という声を聞いていたそうです。市内でクマが集落内のカキに来て、危険な状況があるという相談を受けました。現地へ行ってみると、たくさんの方々が利用する駐車スペースの上にカキの木が反り出ており、夜間、その上にクマがカキを食べに来ていると聞いています。現場の半径100mくらいの範囲には、ざつと数えてカキの木が20本くらいありました。市の担当者、



民家などが利用している場所のすぐ近くのカキは伐採するか、実を取る。

地主、熊森で話し合い、その木は熊森が実を回収後、地上からでも実を取れ、かつクマが登れないような樹形に剪定しました。するとその後、クマは現れませんでした。その後、市の要請で人身事故を未然に防ぐ対策を市内各所で行っていきました。この活動を市はとても高く評価し、地元にも感謝していただいています。

3カ月半、被害防除の結果 人身事故0、捕殺0を達成!! ボランティアも大活躍

2023年9月〜12月にかけては、例年より里に来るクマが多くなり、人身事故や大量捕殺の恐れがありました。豊岡市は山の実りはそれほど悪くありませんでしたが、なぜかクマがカキに来ました。兵庫県では放置人工林やナラ枯れ、下層植生の喪失などで奥山が荒廃しており、クマは人が使っていない土地や狭い路地、空き家を伝って移動して、過疎と高齢化の進んだ集落周辺を利用するようになっていきました。今年、豊岡市全体で被害対策を支援する取り組みを実施することができ、熊森も3カ月半の間、連日被害対策の応援に行きました。私と職員の羽田もフル回転でしたが、たくさんボランティアも参加くださり、

全国で支部・会員を持つ 自然保護団体にできること

今年是非常に多くのクマが全国で殺処分されました。胸のつぶれるような事態に何とかできないかと焦ります。しかし、ここで大切なのが「地元の人たちに安心を」という熊森協会のスローガンです。どんな活動でも、地域の方々の理解や協力が不可欠です。野生動物との共存のために地域と協力して、より実践的な被害対策をしていくことで、捕殺は確実に減らすことができます。国や行政の予算はこのようなことに使われるべきです。現場対策ができる支部を増やし、全国各地でクマ問題に悩む地域を支援できる体制をつくっていききたいと考えています。



環境省堀上勝環境大臣官房審議官に、要望書を渡す室谷会長（12月6日）

クマを「指定管理鳥獣」にしてさらなる捕獲強化はおかしい 捕殺で、人身事故は無くならない

クマとの棲み分け・共存のための対策を環境省に要請

捕獲強化はクマを絶滅させる 現状の「鳥獣保護管理法」の枠組みでも捕殺がコントロールできず、暴走してしまっています。しかし、11月13日、東北6県と新潟県、北海道知事らが合同で環境大臣に対し、さらに捕獲できるように、捕殺のための交付金などの支援を受けられる、「指定管理鳥獣」にクマを指定してほしいと要請しました。伊藤信太郎環境大臣は、3月末までに結論を出す国会で

答弁しています。現在指定されているのはニホンジカとイノシシの2種で、指定されると無制限に捕殺されます。クマは、シカ・イノシシと異なり、生息数もけた違いに少なく、繁殖力が弱い動物で、これ以上の捕殺強化は地域的な絶滅を招く恐れがあります。ニホンオオカミは、徹底的な駆除で絶滅。九州のツキノワグマも同様です。その結果、九州では山崩れが止まらないなど大変な事態になっています。

捕殺支援より、棲み分け・共存の支援を

捕殺の強化では問題は全く解決しないどころか、さらなる問題を引き起こします。クマの人身事故の大きな要因は、至近距離でのクマと遭遇してしまう環境が集落や民家の周りにたくさんあることです。これを変えなければ、捕殺を強化しても、人身事故は無くなりません。また、今年の東北のように奥山にエサが皆無のときにクマが里にまで出ず、食いつなげる森林整備も必要です。捕獲よりもこれらに予算をつけるべきです。

環境省へ要望書提出

12月6日、室谷会長、埼玉県の池田支部長、高橋副支部長が環境省に出向き、クマを指定管理鳥獣に指定してはならないという環境大臣宛の要望書を提出しました。堀上勝環境大臣官房審議官が受け取ってくださいました。その後、環境省鳥獣保護管理室の職員の方々と、1時間に亘り、意見交換をしました。棲み分けをしないと事故は減らせないのだという私たちの主張に、環境省も基本的には同じ方向を向いていると話

要望事項

- 1 人身事故や果樹被害を防ぐため、クマ対策専門員の配置を
2 根本対策として、生息地・奥山の広葉樹林の復元を
3 山の実りの凶作年、集落にクマが出ないよう、山裾に「クマ止め林」を
4 乱獲を招く大量捕殺の規制を
5 クマの生息地での再エネ開発にストップを



嘉田由紀子顧問（写真中央） 務台俊介顧問（写真左）

きには、捕殺のための予算ではなく、被害防除や棲み分けのための予算なのだということ。環境委員会や農林水産委員会で、質問をしてくださる国會議員が必要です。会員の皆様、国會議員にお心あたりがありましたら至急本部までお知らせください。国会の流れを変える質問をしていただけるよう、働きかけたいです。





左から全国再エネ問題連絡会鈴木共同代表、熊森職員池田、林野庁長崎屋圭太森林整備部長。

# 第2回全国大会 全国再エネ問題連絡会

■7月22日 ■於：西宮市夙川公民館

## 自然や森林を破壊する再エネ事業は認めない

全国再エネ問題連絡会は、自然や森林、住民生活を破壊する大規模風力発電やメガソーラー問題に取り組む市民団体の全国ネットワークとして2021年7月に結成されました。クマの棲む水源の森の保全を目指す熊森は、共同代表と事務局を務め、専従職員も1名配置。第1回の全国大会は2022年6月東京の区民会館で開催。第2回全国大会は、関西で実施し、会場とオンラインを合わせて約200名が参加しました。山

梨大学名誉教授の鈴木猛康先生の基調講演（要旨は会報2023年夏号p6参照）に続き、室谷悠子共同代表が各省庁の動きを報告。その後、九州から北海道までの再エネ問題に取り組む各団体の代表が発表しました。国会議員からメッセージも届き、最後は、再エネ法規制を求める国会議員の皆さんの委員会での質疑を動画で紹介。参加者一同、くいいるようになって視聴しました。

報告

「国の再エネ規制はどう進んだか？」

再エネ事業者と地域住民とのトラブルが全国各地で頻発しています。私たち全国再エネ問題連絡会からの問題提起や再エネ事業を問題視する国会議員からの要請もあり、昨年4月に経産省、農水省、国交省、環境省、総務省の5省庁連携の検討会が発足しました。10月には再エネ乱開発を規制するための1回目の提言がありました。その後、再エネ特措法の改正が今年6月に成立し、一部規制がなされましたが、まだまだ乱開発を止めるまでには到底至りません。法改正は少しずつしか進みません。これでは今進んでいる事業は止められません。事業の白紙撤回は、地域の多くの方が腹を決めて、反対の声をあげること、首長が反対を表明していくことでしか実現しません。電力を多く消費する都市の方が孤軍奮闘する地元を応援してほしいです。皆で頑張りましょう。



日本熊森協会 室谷悠子

## 巨大開発に立ち向かう各地からの報告

悩みながらもがんばり続ける全国の仲間たちの発表に、皆で勇気をもらいました。

### ビデオ参加

- 山梨県北杜市 太陽光パネルの乱立から里山を守る北杜連絡会 坂由花氏
- 山形県鶴岡市 ラムサール湿地近接風車建設に反対する会 草島進一氏

### 国会議員の応援メッセージ

- 古屋圭司衆議院議員（岐阜・自民党）自由民主党政務調査会長代行 真の地産地消・地域共生型エネルギーシステムを構築する議員連盟 会長
- 片山大介参議院議員（兵庫・日本維新の会）

### 国会での質疑紹介

- 和田有一朗衆議院議員（比例・日本維新の会）  
2月21日衆議院予算委員会第七分科会  
「再生可能エネルギーによる乱開発について」
- 青山繁晴参議院議員（比例・自民党）  
3月17日参議院経済産業委員会  
「緑の回廊について」
- 庄子賢一衆議院議員（比例・公明党）  
4月12日農林水産委員会  
「緑の回廊について」
- 務台俊介衆議院議員（比例・自民党）  
4月19日経済産業・環境・原子力問題連合審査会  
「森林を伐採する再エネについて」
- 田嶋要衆議院議員（千葉・立憲民主党）  
5月19日経済産業委員会  
「環境アセス・森林法10条について」



宮城県 加美町の未来を守る会 共同代表 猪股弘氏



兵庫県 新温泉町のいのちをつむぐ会 山地純純氏



山梨県 山梨大学名誉教授 鈴木猛康氏



京都府 京丹後市議会議員 永井友昭氏



北海道 北海道風力発電問題ネットワーク 代表 佐々木邦夫氏



長崎県 医師 有吉靖氏



北海道 北海道風力発電問題ネットワーク 副代表 安田秀子氏



熊本県 ちよっと待った！水俣風力発電 代表 中村雄幸氏

## 再エネ森林乱開発規制を求めて、林野庁に署名25536筆を提出 国有林・保安林での再エネ事業の規制も要望

12月6日、2021年から集めていた「自然破壊を伴う再生可能エネルギー開発に規制をかけるよう法改正を求める署名」を提出しました。熊森会員を中心に、多くの方にご協力いただき集まった署名25536筆を持参し、林野庁長崎屋圭太森

林整備部長に提出しました。同時に、林野庁へは、国有林や保安林で次々と計画されている風車等の再エネ事業を原則できないように求める要望書も提出しました。この要望書には、全国再エネ問題連絡会の会員はもちろん、再エネ問題に取り組

む全国の25の住民団体から賛同いただきました。熊森からは再エネ問題担当職員池田、連絡会からは熊森顧問でもある鈴木猛康共同代表（山梨大学名誉教授、小山正人役員（獣医、比企の太陽光発電を考える会代表、北海道から

は仁木町の風力発電を考える会を代表して宮下周平氏、宮下洋子氏が参加しました。水源涵養・災害防止・生物多様性保全など、地域にとって国民にとって、重要な役割をになっている国有林・保安林を、林野庁が先頭に立って守ってほしいという私たちの要望に、森林整備部長は、「国有林、保安林で再エネ事業を進める必要性がある場合もあるので、一律規制は難しいが、個々の事案に対し、厳しく審査していく」と回答されました。

## 環境省、資源エネルギー庁、国交省でも要望

林野庁につづき、環境省の温暖化対策担当の奥山審議官、資源エネルギー庁新エネルギー課伊藤課長と面談。乱開発規制対策について、要望を行いました。

12月12日には、国土交通省都市安全課吉田参事官と盛土規制法の施行体制について意見交換を行いました。

### 資源エネルギー庁への要望

- 1 森林での再エネ開発は避けるとの基本姿勢を示し、保安林解除を、FIT・FIP 認定の要件にすること。
- 2 住民説明会を開かれたものにし、自然保護団体など専門家が参加できるようにすること。
- 3 違法・脱法行為の取り締まりを強化すること。
- 4 全国再エネ問題連絡会から意見聴取をすること。



左から 小山連絡会役員、環境省奥山審議官、室谷会長、鈴木連絡会共同代表、北海道仁木町より宮下周平氏、宮下洋子氏

今回の署名提出や要望書提出のために、顧問である務台俊介衆議院議員にご尽力いただきました。署名を集めてくださったみなさま、ご協力をいただいたみなさま、本当にありがとうございました。法規制は少しずつしか進みませんが、法規制がないと、苦勞して事業計画を止めても、また新しく次の計画が出てきます。これからも、さらに多くの地域とつながり、自然破壊型再エネ反対の声を大きくして法規制を求める声を省庁や国会へ届けていきます。

無断転載禁止





生きものたちを思い続けている  
【版画家】 新潟県魚沼市 赤祖父ユリ氏



熊森協会会員である新潟県魚沼市在住の版画家、赤祖父ユリさんから、動物たちの版画がたくさんあるので、クマや野生動物たちのため、役立ててほしいとご連絡をいただきました。さっそく新潟県支部でイベントの際、展示させていただきました。赤祖父さんの作品で描かれている、動物たちは、凛とした誇り高い独特の雰囲気を持っています。2023年8月、室谷会長らは、赤祖父さんを訪問。生きものたちへの思いをお聞きしました。

には自分の家の犬を放して野犬と一緒に走り回らせているような所でした。近くには空き地や山や松林があつて、今よりもずっと生きものや自然が身近でした。そんな中で、幼い頃から犬や猫と暮らし、生きものへの愛情はいつも深いものでありました。東京藝術大学卒業後は、当時の主流にのり、油絵で人物画を描いていましたが、心にはずっと動物たちがいました。40代の頃、師の後押しで動物版画家になり、もっと多くの人に野生動物とその危機を知ってほしい、という一心で作品を作り続けました。

新潟へ移住して知った生きものたちの苦境

心はいつも生きものたちと

昭和16年、東京生まれ東京育ち。今では想像もできないでしょうけれども、かつての東京は夜

自然が豊かなところで暮らしたいという思いはずっとありましたが、親の介護のため東京を離れられませんでした。母が亡くなり、ご縁があり、新潟へ来ました。雪が3〜4mも積もるのは想像を超えていました。地域でクマをはじめとする野生動物たちと人の軋轢があり、人々が野生動物たちに良い感情を持っていないことに胸を痛めています。

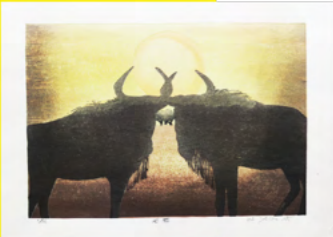
物言えぬ生きものたちのための活動は、とても大切なことです。私の版画が何かの役に立てばと思っています。



赤祖父 ユリ氏

赤祖父さんの版画に関心のあるみなさんへ

赤祖父さんのご自宅には、以前、刷られた版画がたくさんあり、自然保護のために役立ててほしいと言ってくださっています。関心がある方は、熊森本部までご連絡ください。



新潟県のご自宅を訪ねた室谷会長赤祖父さんの版画とともに



八甲田山



みちのく風力発電計画風車建設予定地 熊森協会作成

建設予定の風車

青森県民の声が八甲田山を守った  
みちのく風力発電白紙撤回!!

青森県支部長 石戸谷滋

風力発電建設の大手、ユーラスエナジーホールディングス（豊田商事の子会社）は、10月10日、青森県の八甲田山地に計画していた「みちのく風力発電事業」の取りやめを発表しました。

八甲田山系の生態系に取り返しのでないダメージを与えるとして、熊森も署名協力などで反対運動を支援してきました。計画中止を、皆で喜び合いたいです。



風車建設後の八甲田山イメージ図

PROTECT-HAKKODA 作成署名用紙より

計画見直しや議会変革が進む

ユーラスエナジーは、当初、約1万7300haの地域に高さ最大200mの風車を約150基建設する予定でした。発電量は最大600MW。稼働中のものとして日本最大の「ウインドファームつがる」（青森県つがる市）が最大121MWですから、規模の大きさが分かると思います。

2021年末、この計画を察知して最初に中止の声をあげたのは、八甲田を愛してやまない川崎恭子さんから八甲田ガイドの3人でした。PROTECT HAKKODAという団体を立ち上げ、業者交渉を開始。「八甲田の自然を後世に！」とSNSなども駆使して国内外にあらゆる手段を使って訴え続けられました。残念ながら県民の関心は低く、2022年9月青森市議会に出された風車中止を求める決議は、否決されました。この後、愛する八甲田を風車から守ろうと決意した元青森森林管理署勤務で当時青森県庁職員だった青年、木村淳司氏が10月の青森市議選に当選し、風車反

住民や首長の反対の声が流れを変えた

対の輪を広げました。12月26日の青森市議会最終日、風車中止を求める決議が今度は全会一致で可決！しかし、この時点では、市長や県政財界の大物はまだ皆風車推進派でしたから、風車中止の見通しは立っていませんでした。

反対派の知事と市長の誕生

それでも、反対運動はポディブローのように効き始めていたのでしょうか。危機感を抱いたユーラスエナジーは、反対派の要請で2023年3月に青森市など6箇所住民説明会を開きました。3月11日に青森市で行われた説明会は、熱気を帯びたものになりました。参加者たちは次々に事業の白紙撤回を求める発言をし、その度に場内は拍手に包まれました。私たちがくまもり青森も頑張って発言しました。

この席で、ユーラスエナジーの秋吉副社長は「地元自治体の首長の賛成が得られないかぎり、事業を進めることはないと明言しました。これは「主だった首長をこちら側に引き入れていく」という自信の表れでしたが、この説明会を潮目に、流れが変わりました。

なお残る重い課題

しかし、これで青森県内の風車建設ラッシュに歯止めがかかったわけではありません。業者は、ターゲットを山間部から沿岸部へ、さらに洋上へと移しつつ、自然破壊となる風車建設を次々と計画しています。それらの地域には反対運動らしきものは起こっていません。この問題にどう立ち向かっていくのか？くまもり青森には重い課題が突きつけられています。



新 支 部 長 あ い さ つ

新潟県・広島県で新たに支部が発足！  
各地での活動が広がっています！



広い北海道、各地を回り、  
会員みなさんと連携をとりたい  
北海道支部長 鈴木ひかる

今年の8月に北海道支部長として就任させていただきました。鈴木ひかるです。

熊森との初めての出会いは5年前、私がまだ滋賀県に住んでいた時です。北海道島牧村のヒグマが捕殺される動画をネットで見てしまい、箱罌のなかでキョトンとした顔で動じずにおとなしくしている姿を見て、とても胸が苦しく、悲しくてたまらなくなり、「くま守りたい」と検索したところ、実践自然保護団体日本熊森協会が出てきたのです。

電話をしたところ、私の熱い気持ちを、一生懸命聞いて下さったのが、森山名誉会長でした。辛い気持ちを助けて欲しくてたまらなかったことを今でも覚えております。すぐに会員になり、自分でヒグマ捕獲ニュースを見ては北海道に行き、森山名誉会長の助言や人脈なども教えていただきながら、一人で必死に何とかできないかと動き回っていました。

「北海道に住んでもいない本州の人間が」と言われることと、飼育しているセントバーナードたちが暑さに弱いことで移住を考えだし、昨年4月に北海道に移住を致しました。

ヒグマ生息地に移住したことを森山名誉会長に報告したところ、初代北海道支部長が辞められたことを知り、何とかお力になればと支部長をさせていただくことをお願い致しました。

これから支部長として、北海道全道でのヒグマや他の野生動物たちの保護活動、自然を大破壊する再エネ開発などの問題に、会員の皆様と一緒に学びながら、まっすぐな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

「どうすれば、人は自然と向き合って共存していけるのか？」を念頭におき、各地を回り、会員の方々と親睦を深め、連携をとりながらさまざまな問題に取り組み、講習会や、くまもりカフェなどを開催していく予定です。

まだまだ不馴れではありますが、本部と連携取りながら頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



多くのクマの命が奪われたことを胸に、  
正しい知識を伝える活動を  
新潟県支部長 佐藤正陽

今年の8月、新潟県支部が発足し、支部長に就任いたしました佐藤正陽です。

今年は、かつて無い程のクマの尊い命が奪われ、絶望しそうな程の厳しさに直面しています。私は今感じているこの不甲斐無さを忘れることは出来ません。そしてお上によるこれまでも増して非道なクマへの対応策、何故みなさんこれ程までに問題の根本を見ようとしないのでしょうか？根本を見れば取るべき対策は至ってシンプルな筈です。もう一度クマの棲める森に戻す事、子供でもわかる当たり前のことを何故見ようとしないのでしょうか。

人間中心の社会、つまり野生動物の犠牲の上に成り立っていると良い今の社会、その挙句に人間自らの生活をも脅かしていることに気づく事さえ出来なくなってしまう多くの日本人。野生動物の出没を怒り、憎しみ、果てはお金儲けの手段にさえしている。このままでは世界から日本人は愚かな国民と言われてしまうことになるでしょう。

新潟県支部では、この秋、妙高市でクマ対策講座を開催したり、関川村で地域の方のお話で、クマの生態やクマとの付き合い方を伝えたりしました。これからもやるべきことはこれまでと同様に、正しい情報を多くの人に伝えて行くことが中心となるでしょう。

「野生動物に対する怒り、憎しみを抱きながら生きる」とこと「野生動物に対して慈しみの心を持ちながら生きる」、この地球上で同じ命を持つ者としてどちらが心豊かでいられるでしょうか。

「全ての命は神の分け命」。日本人の誰もが持っていたこの思想観念を、今一度呼び覚まさないければ、人間の不条理のために生きる権利を奪われた多くのクマなどの野生動物たちの無念を晴らすことはできないと感じています。

「そこに住む人が、本気にならないと、地域の森も野生動物も守れない」として熊森は支部活動を大事にしています。

3月の青森県支部に引き続き、新潟県、広島県でも支部が誕生し、北海道と山口県では新支部長が誕生。

28の都道府県に活動が広がっています。

地域の輪が広がれば、もっとたくさんの自然が守れます。ぜひ、支部活動にご参加ください。

今後も、支部のない地域での支部立ち上げに力を入れていきます。



礼儀と節度を持って全ての命に愛を捧げ、  
感謝する社会を  
広島県支部長 竹内大策

この度、広島支部長を拝命しました竹内大策と申します。私は大阪府豊中市で生まれ、中学生の時から空手を習いはじめました。そして空手家として生きる事入門と同時に決意し、2006年に広島で空手道場を開設し、現在に至ります。

空手は戦うというイメージが余りにも強くよく誤解されますが、空手は争いを収め、鎮めるためにある調和融合、愛の武道なのです。呼吸のリズムは3拍子、ズンタッタ。そう、ワルツのリズムです。喧嘩にはなり得ないリズムなのです。ロマンチックでしょ！私は空手の実践として、災害支援活動や古民家の再生、教育活動などに関わってきました。

様々な社会の課題と向き合う中で共通してわかったことはたくさんありますが、全ての社会課題の根源には「恐れと不安」があります。政治家が子どもみたいな嘘をつくの、我さえ良ければと自然破壊するの、みんなみんな、今、不安で一杯だからなのです。本来、不安や恐れとは、純粋無垢な命を守るために経験から手に入れた必要なアイテムであり、尊いものですが、いつしかそれに支配されてしまいました。これは不安を煽る消費社会からのコマーシャルの責任でしょう。

そんなお祭り騒ぎ的な人間に対して、言葉を持たぬ命たちは今「そっとしておいておくれ」と私に話しかけてきます。私たちは文明に胡座をかかず、礼儀と節度を持って全ての命に愛を捧げ、感謝することで文化を見直す必要があります。不安に打ち勝つ方法は一つ。それは希望の光です。

私は戦わず、そして屈せず、人として正しく生きる事をここに宣言します。私は、私たちの遺伝子が7000世代続いたように、この世界は大丈夫だと信じています。愛しています。



水源こそ命  
連綿と続く命の鎖の一輪となって  
山口県支部長 松田利恵

この度、山口県支部長を承ることになりました松田(旧姓森山)利恵です。森と山が利を恵む、それはまさに水です。

広島県福山市で靱の浦や自然豊かな川や山々に囲まれて育つと同時に、工業化で汚れゆく川や海を、信頼していた大人たちが誰も止めてくれなかったことなどで、心に深い傷が残りました。夫の転勤で、東京、広島そして兵庫・西宮には15年間住まい、西宮～六甲山から多くのものを学び、生命を強くさせて頂きました。

子どもの頃から、なぜ人は病になるのか？を追求し続け、その答えは「自然体験」の欠如であると思ひ至り、自然活動を多くの人たちと体験しながら、古来から大切に守られてきた地に畏怖の念を深めてきました。

日本熊森協会の存在を知ったのは、夫の母の介護のため、西宮から断腸の思いで、山口市に引っ越すことを決めた約5年前ごろでした。ご多忙でほとんど活動できない二代目支部長さんから、是非支部長を引き継いで欲しいと頼まれ、この度山口県支部長を承ることになりました。

名実ともに山だらけの山口は、明治維新策源地で、地方ながら先進的？な行政が行われている地です。そんな中でも、類は友を呼び、熊森の心に共振共鳴する愛深い仲間が既にまわりに多く集まりつつあります。天地からの多くの恵みに感謝しつつ、そのかけがえの無い教え「水源こそ命」に従い、連綿と伝わる命の鎖の一輪になりたいと思います。

全国の熊森仲間の皆さま、どうぞよろしく願い申し上げます。



山口県支部役員たち 中央 森山名誉会長、松田支部長 (12月8日)

無断転載禁止



# 私の動物観は、猫との出会いから。

顧問 赤松 正雄



## ■赤松正雄顧問プロフィール

兵庫県姫路市生まれ、神戸育ち、慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、公明新聞記者を経て、衆議院議員に。厚生労働副大臣などを歴任し、6期20年務めて、2012年に引退。2000年より熊森顧問。

「人間だけでなく生きとし生けるもの皆大事」への転換だったのだ。私が森山まり子さん（現名誉会長）の情熱的誘いを受けて、日本熊森協会と奥山保全トラストの2つの団体に関わらせて頂いて、はや20数年が経つ。つい先日には第9回トラスト地ツアーで、岐阜県高山市の奥飛騨温泉郷を訪れ、焼岳のふもとに横たわる原生林を、米田真理子奥山保全トラスト理事長始め仲間の皆さん20人ほどと共に登った。急な勾配の山道を行くため、予め人念な準備体操をし、熊との遭遇にも備える対策を学んだ上でのことだった。平日頃ウォーキングに励んでいるとはいえず、平らな道ばかり起伏が激しく、時おり崖っぷちを歩くのとは勝手が違う。往復3時間ほどの登山は、紅葉真っ盛りの展望を楽しむゆとりはあまりなく、あたかも罰ゲームを受けているような難行苦行の連続だった。元気で若いスタッフや女性会員の心温まる支援を受けて、事故なく生還できたことは多少オーバーながら奇跡的ともいえ、感謝しかない。

「にゃんにゃんじいじー」そのむかし、孫が私につけた愛称である。妻は、にゃんにゃんばあば。というのも、猫がいた我が家から娘が嫁いだ先には、犬がいた。いつの日からか、2組の爺さん婆さんの区別をつけるため、そう呼ばれることになった。略して、にゃん爺。響きは悪くない。もう呼ばれることもない今となっては、とても懐かしい。

かつて六粟市一宮町の山あいの集落で演説をした際に、特設演壇の端っこにちょこんと座って聴衆の方を向いていた一匹の猫。票集め猫の猫。票集め猫と睨んだわけではないが、この猫を買って帰った時の家族の喜びといえは尋常じゃなかった。この猫との出会いが私のふつうの動物観を変えた。大袈裟なようだが、人間中心主義（人間が一番大事）から、生物主義（いきもの主義）

「にゃんにゃんじいじー」そのむかし、孫が私につけた愛称である。妻は、にゃんにゃんばあば。というのも、猫がいた我が家から娘が嫁いだ先には、犬がいた。いつの日からか、2組の爺さん婆さんの区別をつけるため、そう呼ばれることになった。略して、にゃん爺。響きは悪くない。もう呼ばれることもない今となっては、とても懐かしい。

こんな私が熊と出逢ったの

「にゃんにゃんじいじー」そのむかし、孫が私につけた愛称である。妻は、にゃんにゃんばあば。というのも、猫がいた我が家から娘が嫁いだ先には、犬がいた。いつの日からか、2組の爺さん婆さんの区別をつけるため、そう呼ばれることになった。略して、にゃん爺。響きは悪くない。もう呼ばれることもない今となっては、とても懐かしい。

「にゃんにゃんじいじー」そのむかし、孫が私につけた愛称である。妻は、にゃんにゃんばあば。というのも、猫がいた我が家から娘が嫁いだ先には、犬がいた。いつの日からか、2組の爺さん婆さんの区別をつけるため、そう呼ばれることになった。略して、にゃん爺。響きは悪くない。もう呼ばれることもない今となっては、とても懐かしい。

# 楽しく語り合い、自然保護の輪を広げよう!! ～くまもりカフェを全国で開催～

## 長野くまもりカフェ

8月19日 長野県松本市

### 40名を超える参加者で、座談会も盛り上がりました

長野県支部長代理 唐沢善子

東京からUターンした私は、川の氾濫による実家の度重なる水害や毎年激減している昆虫類に異変を感じ、山と自然環境が変化した事への危機感から熊森協会に入会しました。長野県支部の活動をなんとか継続させたいという思いで、今回のくまもりカフェの開催に至りました。

当日は、室谷会長が熊森協会発足の経緯から山の現状や今後の課題を講演し、その後、特別ゲストとして、国民の祝日である「山の日」制定に尽力された、熊森顧問で地元長野の務台俊介衆議院議員に講演いただきました。務台顧問は、国の政策の中で、生物多様性が今後ますます重要になってくること、そのような中でクマの棲める豊かな森を守る熊森協会の活動がとても貴重な実践であると述べられました。私は「長野県の孤児グマの観察と看護」をテーマに報告しました。



参加者は県内の会員や呼びかけで集まった方など40名を超え、会場は満席でした。池田埼玉支部長・高橋副支部長、坂名井山梨支部長も応援に駆けつけてくださいました。

座談会では、参加者から、「山の環境が悪化している事をあまりにも知らなさすぎた、多くの人に知ってもらいたい」、「今の日本を根本から見直す時かもしれない、とっても良い会だった」等の意見が聞かれ、話が弾み時間が足りなくなるほどでした。

今回、顔の見える機会を作ることができ、地域の活動を広げるための第1歩が踏み出せました。関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。

## 青森くまもりカフェ

9月29日、9月30日 青森県弘前市、青森市、十和田市

### 自然を愛し、守りたい人が集まり、素敵な交流ができました

青森県支部長 石戸谷滋

青森県支部は、弘前市、青森市、十和田市の3箇所で「くまもりカフェ」を開催しました。前半の1時間は室谷会長の講演、後半は7～8人ずつのグループに分かれての談話会をもちました。

会場への案内を間違えて、講演前の会長を走らせてしまうという失敗を別にすれば、弘前市（参加者44人）、青森市（参加者33人）、十和田市（参加者28人）いずれのカフェも大成功に終わりました。室谷会長は、日本の森の現状やクマと人との共存、再エネ問題について熱を込めて講演されました。

後半の談話会は大変盛り上がりましたが、私たちは、時間節約のため、各グループが質問を一つだけ用意し、紙に書いて、最後に会長に一括して答えてもらう、という形式をとりました。これはうまくいったと思います。

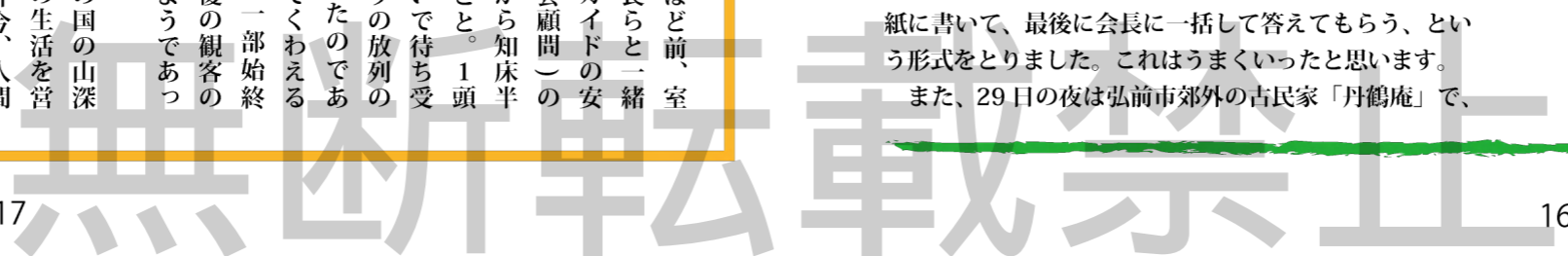
また、29日の夜は弘前市郊外の古民家「丹鶴庵」で、



30日の夜は十和田市の「orta」で交流会が開かれ、大いに盛り上がりました。

翌10月1日には、会長と本部の吉井さん、それに会員有志が「七戸十和田風力発電所」や「ユーラス野辺地ウィンドファーム」などを見学。あわただしい、でも充実した3日間を締めくくりました。

参加者からは、「自然に対する我々の行為は持続性が全くないこと、私自身、山を所有している者として、昔から大変残念に思っておりました。是非今後も知識を分け合い、活動させていただければと思います。」「広く自然・文明の在り方、人間の生き方の問題を視野に入れ活動しているのが伝わってきてよかった。また、具体的な解決の道筋を提示していたのがよかった」などといった感想をいただきました。







講演中の室谷悠子会長

# たくさん子どもたちに、自然や生き物との共存の大切さを伝えたい

会員の皆様のご尽力で、昨年度より実施回数が増加!! 本  
当にありがとうございます。特に今年は、東北を中心に  
人身事故が多発し、一般の方々の中にクマへの恐怖心だ  
けが高まってしまったことを肌で感じます。子どもたち  
に、なぜクマが今年これほどまでに出没しているのか、  
森が荒廃すれば人間にどのような影響が出るのかを伝え  
る場となりました。クマが人と棲み分け共存できる動物  
だということも私たちが大切な役割です。



松蔭岡本保育園での環境教育

9月29日 神戸市  
松蔭岡本保育園

毎年環境教育をさせていただいている松蔭岡本保育園。嬉しいことに園児たちは、昨年の親子グマの紙芝居を覚えていて、職員の仕事のことで「紙芝居の人」と呼んでいました。今年は兵庫県の実話で野施行(大寒の日に村人と子どもたちがキツネやタヌキのエサ不足を心配して小豆飯や揚げを山に置きに行く行事)の絵本「こんこんさまにさしあげそうろう」を題材に、人間だけでなく動物の視点に立つことや、昔の日本人の優しさを伝えました。

## 講演会

# 中学生に水源の森の大切さを語る

「豊かな水源の森を次世代へくまびん保護士が森を守るのか」

於 大阪府 箕面自由学園

熊森の活動は、31年前、兵庫県尼崎市の中学生たちが、クマを絶滅させるなど立ち上がったことから始まりました。室谷悠子会長は、その時の中学生です。「子どもたちに、日本の森で今、何が起きているかを知ってほしい」と、中学生の娘を持つ会員の吉田有美さんが、PTA会長をしている大阪府の箕面自由学園に、中学生と保護者250名が参加する講演会の講師として、室谷会長を呼んでくださいました。



室谷会長は、クマを助けてあげたいと思った中学生たちの気持ち、クマが棲む日本の水源の森が危機的状況にあると知った時のショック、次の世代のため、全ての生命のため、森を造る生き物たちと共存し、森を守らなければならぬことを熱く語りました。また、地球温暖化対策として、メガソーラーや風力発電のために、水源の森が伐られていくのを止めるために奮闘していることも伝えました。

中学生のみなさんはとても真剣に聞いてくださいました。

## 環境教育

### 教育フェスティバル

10月28日尼崎きょうういくフェスティバルに早川宏美会員の呼びかけで、森山まり子名誉会長が講師として招かれました。教員向けに「どうすれば日本の自然が守れるのか」と題した講演を行いました。11月11日には工藤が兵庫県宍粟市で開催されたひょうご教育フェスティバルに参加し、環境教育に取り組む教職員らと意見を交わしました。



あまがさき教育フェスティバル

### 11月3日

### 西宮市 瓦木小学校 わくわく瓦木まつり

「わくわく瓦木まつり」は小学校内のイベントで、ドングリを使って笛を作りながら、クマの食べ物や森の話をしました。児童の作業中に、付き添いの方々に熊森の活動の話もできました。

イベントでは駆除ではなく、クマとの共存を選んだリング園(兵庫県宍粟市)の話に基づいたオリジナル紙芝居「もりにひかりを」も熱演。少しでもくまの目の名前が浸透するようボランティアの皆さんと一緒にブースを盛り上げました。クマや熊森の活動に関する質問もあって、手ごたえを感じました。



瓦木わくわくまつりにてクマの折り紙をおる児童

### ●吉田有美さんの感想

日本の水源の森の危機的な現状を知ってもらうことが大事なことだと思ひ、この講演会を開催しました。一度壊された森は、元に戻すのに何百年という長い年月がかかります。森はとても繊細で、生き物たちは絶妙なバランスの上に共生しており、森がなくては人も生きてはいけないという事実を皆さんに知っていただきたいです。

室谷先生が皆さんと同じ中学生のときに、心に思ったことを持ち続けながら、ずっと今まで活動を続けられていくことが、私が一番感動していることです。



PTA 会長の吉田有美さん

### 生徒の感想

人間とクマが共存するのと同じで、人間関係も片方だけがいい思いをするのではなく、お互いに幸せな関係を築くことが大事だと思いました。今回の話はクマや自然だけでなく、私たちの身近にある人と人との関係にも言えることだと思いました。

### 保護者の感想

国策として未来のために「森を再生させる」といった治水対策の方針を考え、実行しなくてはいけないと心から感じました。

・お金で買えないもの「環境・自然」を大切にしていきたいと再認識させていただきました。

・メガソーラーや風力発電等、一見自然に良いように感じる再エネ事業ですが、一部金の儲けを重視する大人が水源の森を破壊しているという事実を教えてくださいました。

## 環境教育



とよ 13才 京都府生まれ オス

### たくさん食べて、冬ごもり準備完了



7月末から突然、冬ごもりの為の食い込みを始めたとよ。夢中でどんぐりだけを食べていましたが、最近ではもう必要なだけのどんぐりを食べ終えたようで、これまで見向きもしなかった他の果物も食べるようになりました。昨年は少し太りすぎて、冬ごもり明けの春にも痩せていなかったとよ。今年はどんぐりの量を調整し、ちょうどよく太ってくれました。

例年12月20日頃、初雪が降ったらすぐに冬ごもりしますが、今年は12月になっても気温が高いためか、まだまだ眠そうな様子は見られません。今年はどうなるのやら。



冬ごもり用に無農薬のワラを作っていました。おかげさまで冬を暖かく過ごせます。

錯誤捕獲グマ（とよ）の保護飼育  
大阪府豊能町高代寺 お世話日は  
毎月第1、2、4 火曜日と  
第3日曜日です。



とよ冬ごもり準備完了（12月12日）

# くまと過ごす日々

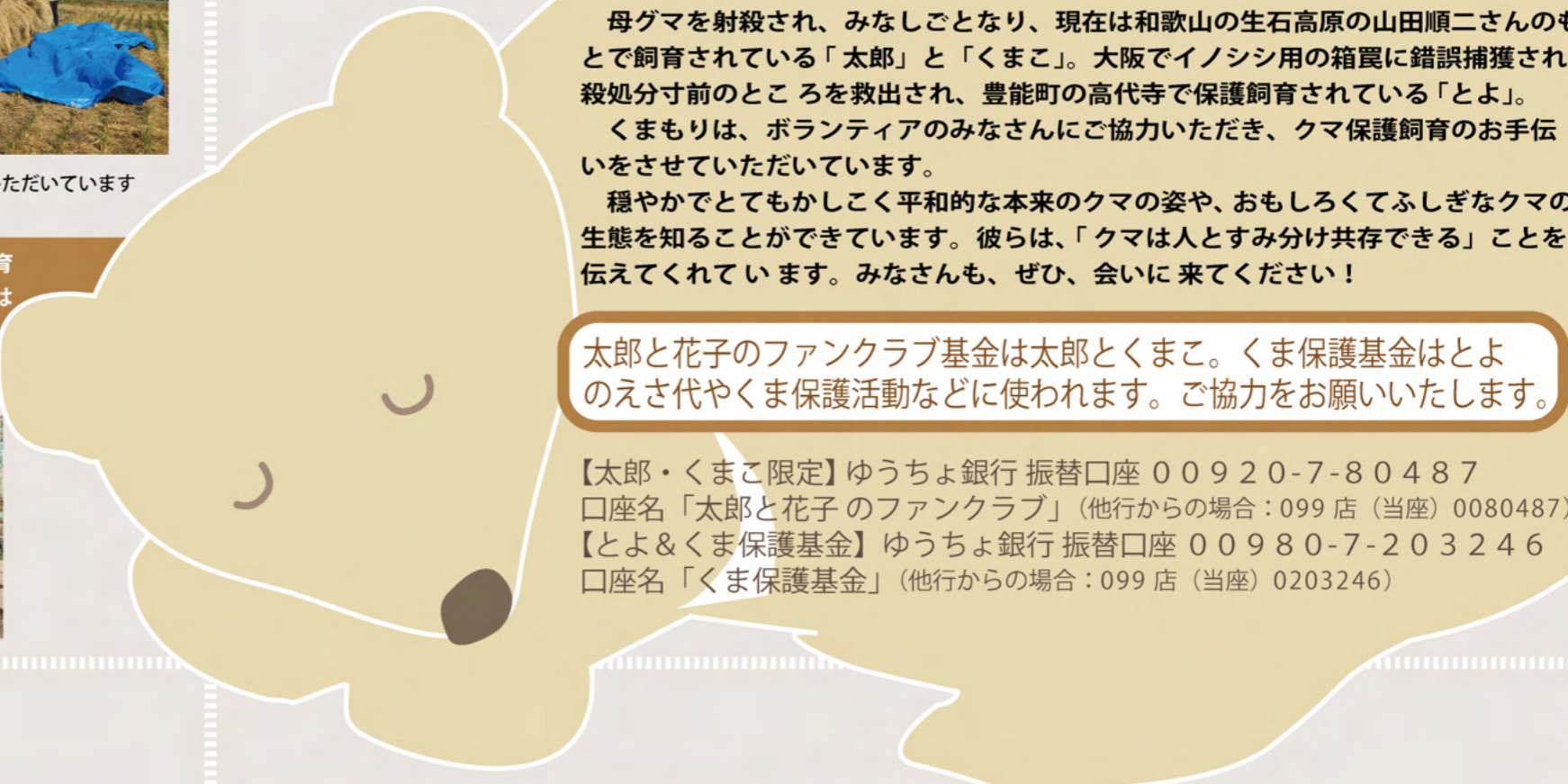
母グマを射殺され、みなしごとなり、現在は和歌山の生石高原の山田順二さんのもとで飼育されている「太郎」と「くまこ」。大阪でイノシシ用の箱罠に錯誤捕獲され殺処分寸前のところを救出され、豊能町の高代寺で保護飼育されている「とよ」。

くまもりは、ボランティアのみなさんにご協力いただき、クマ保護飼育のお手伝いをさせていただいています。

穏やかでとてもかしこく平和的な本来のクマの姿や、おもしろくてふしぎなクマの生態を知ることができています。彼らは、「クマは人とすみ分け共存できる」ことを伝えてくれています。みなさんも、ぜひ、会いに来てください！

太郎と花子のファンクラブ基金は太郎とくまこ。くま保護基金はとよのえさ代やくま保護活動などに使われます。ご協力をお願いいたします。

【太郎・くまこ限定】ゆうちょ銀行 振替口座 00920-7-80487  
口座名「太郎と花子のファンクラブ」（他行からの場合：099 店（当座）0080487）  
【とよ&くま保護基金】ゆうちょ銀行 振替口座 00980-7-203246  
口座名「くま保護基金」（他行からの場合：099 店（当座）0203246）



ほぐくまたち

ほぐくまたち

太郎 33才 和歌山県生まれ オス

### 厳しい暑さを何とか乗り越えました



人間でいえば100歳近い身体には酷暑はとてきつかったことでしょう。9月には、ご飯をあまり食べなくなってしまった太郎。これが最期かと森山名誉会長や本部職員らが和歌山に飛んで行き、太郎の育ての親であり、実の子どものように可愛がっていた（故）東山省三先生があげていた水まんじゅうを出したところ、大喜びでパクリパクリ。今ではすっかり食欲も元通りになり、ゆっくりと散歩する様子がみられます。太郎は来春に爪切りの予定です。



なつかしい水まんじゅうを見つめる太郎



みなしごグマ（太郎とくまこ）の保護飼育  
和歌山県有田川町  
お世話日は、和歌山県支部（第1・3日曜）、  
兵庫県本部（第2・4日曜）

生まれてすぐに人に育てられたくまこはどんぐりを与えてもほとんど食べず、本格的な冬ごもりはこれまでしていません。

今年は、去年よりもたくさんクリを食べ、脂肪を蓄えたので、しっかり冬ごもりするかもしれません。いつもならボランティアのお世話隊がやってきたら大はしゃぎのくまこも、この日は眠そうに部屋で大あくび。とはいえ一旦部屋から出ると、元気いっぱい遊びまわっていました。

くまこ 3才 石川県生まれ メス

### クリでたっぷり肥えました！



無断転載禁止



■日本熊森協会 法人会員（都道府県別）

2023年12月12日現在

企業会員

|                |      |                      |      |                   |     |
|----------------|------|----------------------|------|-------------------|-----|
| マルソー(株)        | 新潟県  | オーセンテック(株)           | 神奈川県 | (有)アイ・エー・シー       | 大阪府 |
| (医)小川医院        | 茨城県  | 上昇運輸(株)              | 石川県  | (弁)東大阪総合法律事務所     | 大阪府 |
| 星野管工(株)        | 群馬県  | (株)アライアンス            | 石川県  | (株)イワノ            | 大阪府 |
| (有)長谷川電機商会     | 埼玉県  | 飛騨産業(株)              | 岐阜県  | (株)シーエスハラダ        | 大阪府 |
| (株)日本ウォーターテックス | 埼玉県  | (株)伴電気商会             | 岐阜県  | (弁)あすなる           | 大阪府 |
| (株)セレモ         | 千葉県  | (株)プレマ               | 愛知県  | 合同食品株式会社          | 大阪府 |
| (株)祐真          | 東京都  | (株)メイコウ              | 滋賀県  | (株)尼崎工作所          | 兵庫県 |
| (株)学夢堂         | 東京都  | (有)ブルーベリー・フィールズ 紀伊國屋 | 滋賀県  | ダイワ運輸(株)          | 兵庫県 |
| アカデミア動物病院      | 東京都  | (株)トータルヘルスデザイン       | 京都府  | (株)Lightning&Star | 兵庫県 |
| (株)Major 7th   | 東京都  | 朝日商工(株)              | 大阪府  | (株)ネイチャー生活倶楽部     | 熊本県 |
| (株)ベアーズ        | 東京都  | 豫洲短板産業(株)            | 大阪府  | (医)杏子會            | 宮崎県 |
| (有)コスモス        | 神奈川県 | ムソー(株)               | 大阪府  | (株)吉玉自動車工場        | 宮崎県 |
| 神谷コーポレーション(株)  | 神奈川県 | (株)ホワイトマックス          | 大阪府  |                   |     |

団体会員

|                |      |                |     |                |      |
|----------------|------|----------------|-----|----------------|------|
| (有)仁井田本家あぐり    | 福島県  | (株)わらべ村        | 岐阜県 | 尼崎プロバスクラブ琴寿会   | 兵庫県  |
| (株)小松設計        | 千葉県  | (有)島田家具工芸      | 滋賀県 | 和田山ロータリークラブ    | 兵庫県  |
| (株)シーエスコポレーション | 東京都  | (株)アタシオン       | 京都府 | ドッグハウスK9       | 兵庫県  |
| (株)シェア・ワールド    | 東京都  | (合同)熊本物産屋      | 京都府 | 東城ロータリークラブ     | 広島県  |
| (一社)シェア基金      | 東京都  | 木下音楽教室         | 大阪府 | 吉舎ロータリークラブ     | 広島県  |
| (医)飯沼病院        | 東京都  | 西宮恵美寿ロータリークラブ  | 兵庫県 | (宗)龍国寺         | 福岡県  |
| (株)オリエントナノ     | 神奈川県 | (株)ヒューマレッジ     | 兵庫県 | (株)リンク・マーケティング | 福岡県  |
| ももちゃんの森の探検隊    | 神奈川県 | 第一電子(株)親睦会     | 兵庫県 | 公文東与賀教室        | 佐賀県  |
| ぺこちゃんも         | 神奈川県 | 西宮甲山ライオンズクラブ   | 兵庫県 | (株)宮崎中央新聞社     | 宮崎県  |
| (株)クリーンK       | 岐阜県  | NPO会計支援センター    | 兵庫県 | (有)角田          | 鹿児島県 |
| (株)杜の研究所       | 岐阜県  | (株)GEOソリューションズ | 兵庫県 |                |      |

■日本熊森協会 顧問（就任順）

2023年12月12日現在

|              |   |       |                                 |
|--------------|---|-------|---------------------------------|
| 宮澤正義         | 生物環境学・野生動物研究家【名誉顧問】<br>(ツキノワグマ研究第一人者)       | 石 弘之  | 元東京大学大学院教授 元駐ザンビア特命全権大使         |
| 主原憲司         | 昆虫研究者（森林生態学研究）                              | 船瀬俊介  | 消費者運動ジャーナリスト                    |
| 赤木文生         | 国際ロータリー第2680地区パストガバナー<br>元日本弁護士会 副会長        | 今本博健  | 水工技術研究所代表 京都大学名誉教授 工学博士         |
| 赤松正雄         | 元衆議院議員（元厚生労働副大臣）                            | 平野虎丸  | 森林・林業アドバイザー<br>一般社団法人エコシステム協会理事 |
| 中野和子         | 公認会計士 税理士                                   | 林 将之  | 樹木図鑑作家                          |
| マルコム・フィッツアール | カピラノ大学名誉教授                                  | 馬淵睦夫  | 元ウクライナ大使 元防衛大学校教授               |
| 門崎允昭         | 北海道野生動物研究所 所長 農学博士<br>(ヒグマ研究第一人者)           | 藤田 恵  | 徳島県旧木頭村 元村長                     |
| 大前繁雄         | 元衆議院議員（元防衛大臣政務官）                            | 嘉田由紀子 | 参議院議員 滋賀県選出 前滋賀県知事              |
| 安積遊歩         | ピアカウンセラー                                    | 安藤 誠  | プロネイチャーガイド 野生動物写真家              |
| 安田喜憲         | 国際日本文化研究センター名誉教授 理学博士<br>ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 | 片山大介  | 参議院議員 兵庫県選出                     |
| 西川節行         | 元広島大学教授 関西経済連合会                             | 池田直樹  | 弁護士(大阪弁護士会) 日本環境法律家連盟理事長        |
| 橋本淳司         | アクアスフィア代表 水ジャーナリスト                          | 務台俊介  | 衆議院議員 長野県選出                     |
| 船越康弘         | 民宿「百姓屋敷わら」経営                                | 土屋品子  | 衆議院議員 埼玉県選出                     |
|              |   | 和田有一朗 | 衆議院議員 兵庫県選出                     |
|              |   | 飯田哲也  | 認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長           |
|              |   | 鈴木猛康  | 防災推進機構理事長 山梨大学名誉教授              |

おたより  
紹介

今年は何年にもない大量のクマが捕殺されるなど心の痛む日々を過ごしてきました。クマたちは今、冬眠の場所に移動しているのだろうか？母親を殺され、逃げ延びた子グマたちは、十分

飼育していたツキノワグマのクロちゃんの死、遺品や遺産の整理と多忙すぎて、月日の流れの速さに驚いています。



クロちゃん 31才（当時）

私は、それには真つ向から反対で、捕獲したら唐辛子スプレーをクマに噴霧して人間の怖さを教えてから山に放獣し、「里に降りてくるところいう目にあうんだよ」と学習させることで出没を抑えることができるものと思っ

メディアはクマ狩りの経験もあり、クマ飼育歴32年の経験者には、何の意見も聞きに来ず、ペーパーだけで知識をつけた専門家なる者がテレビ出演し、「アーバンベア」との、聞きなれない言葉を出していた。彼らは、都市型のクマは駆除すべきと話していた。

クロちゃんの母親も倒木に雪が積もった状態のお粗末な場所まで冬眠していた。冬眠穴は奥行きがそれほど深くなく尾根筋の松の根が露出した場所でした。  
な教育を受けられずにいるので心配です。特に雪で覆われて酸欠するような場所で冬眠しないか心配です。

山形県 佐藤八重治氏（熊森のマスコットグマ「クロちゃん」を32年間飼育）  
元クマ狩猟者、クマ飼育32年の経験から言えること



北海道のヒグマ問題  
「市街地になぜ出て来るのか他」

北海道出版企画センター（本体1,000円＋税）



書籍紹介

門崎 允昭氏（北海道野生動物研究所 所長）

熊森の顧問で、ヒグマ研究の第一人者

門崎先生は、大地は全ての生き物の共有物であることから、ヒグマについて、人的・経済的被害を予防しつつ、極力殺すべきでないという立場で、長年の研究の経験を生かして発信しています。

ヒグマが居そうな場所に行く場合の注意、市街地に出て来るに至った経緯、出没防止の具体策など、輻輳が増えている北海道でのヒグマ対策の提案もあり、ヒグマについて知りたいことが簡潔にまとめられた読みやすいハンドブックです。北海道の全ての家に常備してもらいたい1冊。